

社会科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
社会的事象について理解する。(知識・理解) 諸資料を効果的に読み取る技能を身につける。(技能)	社会的事象について思考・判断したことを、説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。(思考・判断・表現)

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手立て	手立ての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<p>ア 第2回定期考査における知識・技能の正答率が58%、思考・判断・表現の正答率が55%であった。歴史的事象の出来事についての内容を問う問題に対する正答率が低く、歴史的事象についての知識の定着に課題がある。</p> <p>イ レポート課題において、具体的な資料を根拠として、意見を述べることに課題のある生徒が見られる。</p>	<p>ア 毎時間の授業で小テスト、単元ごとに単元テストを実施し、学習内容の習得を促す。既習事項をまとめたプリントを配布し、定期的にその内容からテストを実施し、知識・技能の習得を図る。</p> <p>イ 習得と探究のサイクルを意識した単元を構成し、学習した内容を生かして、ディスカッション、ディベート、レポート作成等、問題解決的な学習に取り組ませる。 また、その際に具体的な資料を根拠に意見を述べられるように指導する。</p>	<p>毎回の授業</p> <p>単元のまとめや各授業</p>	
第2学年	<p>ア・イ 第2回定期考査における知識・技能の正答率が56%、思考・判断・表現の正答率が57%であった。歴史上の出来事を適切に並び替える問題に対する正答率が低く、出来事の順序を時系列で捉えたり、関連付けて理解したりすることに課題がある。</p> <p>イ レポート課題において、学習したことを生かし、多面的・多角的に自らの意見を説明することに課題がある生徒が見られる。</p>	<p>ア 単元のまとめの時間に、小テストを配布し、取り組ませる。定期考査以外に、歴史についての総復習テストを実施する。その際に、総復習ができるプリントを配布し、取り組ませる。 既習事項をまとめたプリントを配布し、定期的にその内容からテストを実施し、知識・技能の習得を図る。 定期考査前学習教室を実施する。</p> <p>イ レポート作成に当たって、多面的・多角的に考えられるようにするため、一つ一つの視点を明確にし、スマーリングアップで指導する。 単元を見通した学習課題を設定し、自らの意見を説明する機会の充実を図る。</p>	<p>各単元のまとめの時間 毎回の授業</p> <p>長期休業明け、定期考査毎</p> <p>単元ごと</p> <p>毎回の授業</p>	
第3学年	<p>ア・イ 第2回定期考査における知識・技能の正答率が62%、思考・判断・表現の正答率が65%であった。特に、複数の資料を読み取り、社会的事象について考えることに課題が見られる。</p> <p>イ 歴史上の出来事を適切に並び替える問題に対する正答率が低い。基礎的・基本的な知識に関連して、その知識を活用して推測することに課題がある。</p> <p>イ レポート課題において、複数の資料を活用し、多面的に意見を述べることに課題のある生徒が見られる。</p>	<p>ア 定期的な小テスト(一問一答形式を含める)を実施し、思考・判断・表現の土台となる知識の定着を図る。</p> <p>イ 計画的に復習に取り組ませるとともに、歴史の時代を大観させる学習を探究学習の場面で設定する。</p> <p>イ 単元を見通した学習課題を設定し、自らの意見を説明する機会の充実を図る。 習得と探究のサイクルを意識した単元を構成し、学習した内容を生かして、ディスカッション、ディベート、レポート作成等、問題解決的な学習に取り組ませる。</p>	<p>毎回の授業 単元のまとめや各授業</p>	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

全学年 課題追究を個別で行い、追究した事項を共有して、深い学びにつなげる学習の流れの中で、ICT を活用する。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

全学年 単元ごとに単元を貫く問い合わせの予想と振り返りを行い、自身の考え方の変化を実感させる。他の生徒の意見などを視覚的に提示し、自分の考え方を比較して自らの学びを振り返れることができるようにする。